

「法則を疑うな。自分自身の意識を問え。」

学生時代、「The Footsteps of Dr. G」（和訳版：「ガンステッドの真髄」松久正,M.D., D.C.訳）をセミナー会場で購入し、本の表紙裏に著者の Dr.ジョン・コックスから「Stay Strong in Your Philosophy! : 哲学を強く持ち続けろ!」という揮毫をいただきました。この本は、著者が日々の診療と毎月世界各地で開催されるセミナーの運営等の激務の中書き上げたもので、ガンステッドの生涯、臨床現場で苦楽を共にした Dr.アレックス・コックスと後継者たちの師への熱い思いや実話が赤裸々に綴られています。セミナーにできるだけたくさん参加してテクニックの真髄を極め、「一流になりたい!」と躍起になっていた「テクニック至上主義者」のボクにはこの言葉は全く理解できませんでした。大学卒業後、いざ現場に立ってみると、大学で詰め込んだ知識が邪魔をして、患者さんと「人間対人間」のコミュニケーションがなかなかとれません。そればかりか、その人の現状、症状や苦しみにフォーカスして、それを自分の知識やテクニックでなんとか変えようと焦ってしまい、いつの間にか患者さん自身の本来持つ生命力や希望の光が見えてくる前に自分が疲れて諦めそうになるのです。その結果、アジャストメントを行うところまでたどり着けなかったり、ケアの途中で挫折し来なくなるケースが多発し悩みました。そんなある日、ガンステッドが PSC 卒業後、オフィスの家賃も払えないほどの経営難に落ち込み、悩んでいたという秘話を思い出し、読んだつもりになっていた Dr.ジョンの本を改めて開いてみました。すると表紙の裏に揮毫していただいた言葉が自分の目に飛び込んできたのです。「そうか、これが今の自分に欠けていたんだ!」と衝撃を受けました。

カイロプラクティックの哲学を知らないままだと「何のため?」という目的観が欠けた状態になります。それはまるでナビや地図のようなもので、より早く目的地につける乗り物に乗っていても、ゴールにたどり着けないばかりか、迷子になるのと同じです。

困難や自己の限界にぶつかった時、それを乗り越えて次のレベルまで進化するチカラは知識やテクニックではありません。ではどんなチカラなのか? そのエッセンスを巨匠たちから受け継げるのがガンステッド・セミナーです。来年は新体制で、Dr.ジョン・コックスをお迎えして開催されます。是非参加してみてください。

(カイロタイムズ 2016年2月104号より)